

——22年3月期の業績について。

「コロナ禍からの経済回復が続いており、当社グループでは自動車分野の復調により鋳物など素形材事業が回復傾向にある。また、半導体関連の需要増で、製造装置向けのポンプ部品の受注が好調だ。土木建設機材事業はもともコロナ禍の影響が少なく、主力の橋梁分野の受注が安定している。さらに、高速道路の補修に伴う防震装置の更新需要も今年度は増えている。防震ゴムなど産業機械事業がいま一歩だが、全体としては増収増益。素形材事業の数量増の効果に加え、高速道路関連の受注が今年度に集中した特殊要因もあり、22年3月期は過去最高益を見込んでいる」

——川金グループの現況について。  
「当グループの事業会社

## 川金グループ ディーリングス 鈴木 信吉 社長



原料などコスト高の影響は、大きな課題だ。具体的にはタービンハウジング部材の原価低減努力で吸収できず、コストアップの懸念がある。また、ロストワックス製の鋳造品では、鋳造工程で発生するスラックを回収し、再利用するなどの取り組みを進めている。タービンの部品は、すでにタービンメーカーから調達している。タービンの部品は、すでにタービンメーカーから調達している。タービンの部品は、すでにタービンメーカーから調達している。

## 2022 トップインタビュー 鉄鋼新時代の経営ビジョン

# 「長期視点で事業構成見直し」

素形材が6社、土木建築会社数が多いが、同じ鋳造機材が5社、産業機械が2社、サービスマシンが2社ある。事業違て、素形材部門内よりも、3割、土木建築が5割、産業機械が2割弱だ。素形材は、素形材事業を中心に、約1割が自動車分野であ

## 設計・解析など新たな事業の柱に

ゼロカーボン化は当社単体で実現するのは不可能であり、業界全体での取り組みが必要だ。当グループとして、CO2排出削減目標の設定も、現場で省電力につながる工場の組み方など原単位低減に取り組んでいる。調達品に関する低炭素化や排出権取引の積極活用なども検討している。

